HAKUKOUKAI

社会福祉法人　薄光会　広報紙

「今日よりいい明日」に向かって

第39号

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。
http://hakukou-kai.or.jp/
各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成 28 年 3 月 31 日　社会福祉法人　薄光会　広報委員会発行

本部、太陽のしずく ケアホーム COCO	〒299-1607	千葉県富津市湊 1070-3	☎	0439-67-3711
豊岡光生園 相談支援センター天羽	〒299-1742	千葉県富津市豊岡３５３５-1	☎	0439-68-1711 0439-68-1833
三芳光陽園	〒294-0825	千葉県南房総市上堀 280	☎	0470-36-3211
鴨川ひかり学園 ひなたホームズ	〒299-2854	千葉県鴨川市代 1297	☎	04-7099-3311
湊ひかり学園	〒299-1607	千葉県富津市湊 934-18	☎	0439-70-6551

風と語ろう

“SHーTー!”または『くそっー!』

（一）

この機に何を書いておこうかと考えているうちに、とても許されないほどの時が過ぎてしまった。早春はとうに過ぎている。周囲を拝み倒して、この原稿の推敲を重ねている。

尾籠な話をすることをお許し願いたい。この機会に文字にしておきたいという衝動が抑え難いのである。

（二）

排泄行為のことである。特に大きいほうを出すときの一連の営みほど「個」である自分の存在を意識する営みはないであろう。便器に横たわる排泄物は、視界から消えるまでは「私」を主張する。大袈裟なようだが確実にアイデンティティーの一部である。土足で他者に踏み込まれたくない本能は、このゆえであろう。この営み空間は不可侵の領域とも言える。

（三）

自明のことだが、この営みに何らかの介助を要する者は、この不可侵性を明け渡さなければならない。

不可侵の領域に踏み込んでみたまえ。大変なことになる。以前、私はしくじりをした。短期入所の小柄な女性利用者が入っている車椅子用トイレのドアを、それとは知らず開けてしまったのだ。彼女はびっくり反射で諸手を挙げた。意思疎通が容易ではない彼女なのだが、以来、顔を合わせるたびに、明らかに微妙な空気が流れているのを感じて、関係性を深められずにいる。

（四）

私の養護学校時代の級友は、かつてこんなことを言った。彼女は重度の脳性麻痺者で、中学時代に立位保持というリハビリを、本人不在を理由に拒絶した人物である。「将来のことと言うならば私には徒労に終わらないやるべき選択肢は別にある」と。

その彼女が言う。「介助される者は、自分の人生と他人の人生を同時に生きている。介助者の感覚、気持ちを否応なく感じ、介助者の時間を斟酌してしまう」と。なんでもない生活の中で、排泄が、他者の意識、他者の時間と共にいつも後頭部に貼りついている。

（五）

話が難しくなった。一息入れて、ある子どもの話をしよう。

『アキちゃんは、お尻の始末ができない。不随意運動が邪魔をした。だから大きいのをすると四つ這いの恰好でお尻を突き出して母親か三つ年上の姉を呼ぶ。姉は弟の面倒を嫌がらなかった。けれども、折悪く誰もすぐに駆けつけられないことがあると、アキちゃんは呼んでも誰も来ないことにじれて、泣き出すことも多かった。

そんなアキちゃんが地元の小学校に通うことになった。当時、養護学校はまだない。どんなやり取りがあったのか、アキちゃんは普通学級に籍を得た。意欲に燃える若い女性が担任になった。担任は先例のない学級経営に腐心した。隣家にテレビを見せてもらいに行くそんな時代、地域だったから、異質の児童がいても学級はかえって温かかった。

だが、担任が頭を抱える問題があった。アキちゃんが臭いを発する膨らみのあるズボンのままたびたび下校するのを見ていたのだ。アキちゃんの母親も「度重なるので、裸で家の前に出しちゃいました」と担任に打ち明けた。間もなくアキちゃんは、出来たばかりの施設に入った。母親はアキちゃんの将来をこの施設にかけたのだった。

「学校のトイレ環境は僕には難しかった。人を呼ぼうと廊下の端から端まで走ったよ。でも、人がいても当時の僕は、言語障害で通じないから、困難な説明が長引くうちに、その人の前で漏らしてしまったろう。今でも、衣服を脱げるか、どんなトイレか、失敗を自らホローできるか、慣れたトイレまで我慢できるか、そんなことを余裕のない頭で天秤にかけちまう。常人にしてみれば錯綜した心理だろうね。とにかく入っちまえばって。そうだね。我慢できるほうにかけるなんて、筋緊張で息張っているのと同じなんだから、哀れな結果は目に見えているのにね。でもね、簡単に言ってほしくない。心と記憶に刺さって沈殿していくのだから。介助者は意識してくれるだろうか。長年月に編み出した自分なりの流儀をこそ解ろうとしてくれるだろうか、錯綜した心に寄り添ってくれるだろうか」

大人になったアキちゃんはそう思っている』

理事長　鳥居　博明

ここ de COCO

「マスターいつものやつ」

年が明けた一月の休日、鵜野さん、小松さん、秋田谷さんと一緒にお洒落なカフェを巡る旅に出かけました。今回の行き先は、富津の佐貫にある「グローブ」という喫茶店です。十一時の開店をめがけて行ったので、本日、一組目の『お客さん』でした。

店内に貼られたメニューにパナマ産コーヒー豆「ゲイシャ」期間限定という文字。せっかくなので、そのコーヒーを注文すると、マスターが「香りが独特で、酸味も強いですよ。あまり手に入らないのです。」と説明をしてくれました。違いのわかる秋田谷さんは、砂糖を一つ落として、ゆっくりと貴重なコーヒーの味と香りを楽しんでいました。（鵜野さんはあまりのおいしさに一気飲みでしたが……）

今年の抱負は、秋田谷さんが「マスターいつものやつね」と、注文できる行きつけの喫茶店をつくること。そんなマスターとコーヒーとの出会いを求めて、カフェを巡る旅は続くのであった。

井上

三芳光陽園

光陽

「新しい趣味、見つけた」

テーブルのかたわらに小さな置き物が並んでいる。『起き上がりこぼし』である。

作者は、冗談を言って職員を笑わせてくれる明るい人柄で、話し好きな九十六歳の佐藤さんだ。

そんな佐藤さん、以前は趣味で編み物をしていたそうで、着ている毛糸のチョッキを見せてくれて、「これも自分で編んだんだよ」と教えてくれた

けれども、編み物のしすぎで手を痛めてからは、好きな編み物からも遠ざかっている。

「やりたいんだけど、手がいけなくて……」

そんなある日のこと、職員の勧めで佐藤さんは起き上がりこぼし作りを始めた。

紙粘土を土台に紙を貼り合わせて、形を作り仕上げに絵付けをしていく。

「顔を描くのが難しいんだよ。手が震えちゃって……」

と話しながらも、ニッコリ顔の愛らしい起き上がりこぼしが立派に完成した。

出来あがった起き上がりこぼしを佐藤さん自ら指で倒し、出来具合を確かめている。

「あらら、倒れたまま起き上がってこないねぇ」

「これは私とおんなじだ、寝たらばひとりで起き上がれねえもの」

佐藤さんは、愉快そうに笑っている。

「ホントだ、佐藤さんみたいですね」

と笑って言葉を合わせながら、横になっても変わらない起き上がりこぼしの愛らしく憎めないその表情に少し癒しを感じた私だった。

遠藤

「職員対抗羽根つき大会」

毎年年末に利用者に聞くことがあります。

「皆さんは昔、お正月に何をしていましたか」

皆さんの回答は、凧揚げ、コマ回し、羽根つき等々、子供の頃のお正月を思い出し懐かしそうに話してくれます。

元旦当日、午後のひと時、段ボールで作ったお手製羽子板で、職員対抗羽根つき大会が始まりました。

観戦している利用者から、「それ」「がんばれ」と声援を受け、お互いに真剣勝負を繰り広げました。

真剣（？）勝負。その理由は、負けた職員は利用者に墨で顔に一筆書いて頂く罰ゲームがあったからです。最初は遠慮がちに頬に小さな「×」を書く程度でしたが、試合が進むにつれ、髭や名前を書かれた顔の職員集団の出来上がりです。

締めの対戦は山田施設長と本橋職員との勝負。山田施設長いわく

「昔、卓球やってたから」と余裕の表情でしたが、結果は両者共に顔中墨だらけになりました。

観戦し罰ゲームにも参加した利用者から「楽しかったよ、面白かったよ」という声を頂き「初笑い」を引き出すことが出来ました。

石井

今年の抱負

太陽のしずく

『ある日のにやり・ほっと』

今年度も、その場にいて、思わず微笑んでしまうような出来事（私たちは『にやり・ほっと』と呼んでいます）が沢山ありました。その中でも特に『これは！』という出来事をご紹介します。

『サイクルリPET』というお仕事での出来事です。このお仕事は、ペットボトルのリサイクル活動で、曜日ごとに工程を分けており、毎週金曜日には、近くの業者まで歩いて納品に行っています。この活動を毎週頑張ってくれている千原さんが今回の主役です。千原さんはこのお仕事が大好きなようで、ものすごい集中力で、他の事には目もくれず、自分のペースでどんどんお仕事を進めるといった『我が道を進む人』という印象をその頃の私はもっていました。

そんなある日のことです。

納品の時は、いつも先に歩いて行ってしまう千原さんですが、遠くの方から車が来るのが見えると、後ろを歩いている私たちに

「おい！　おーい！　くーま！」

と声を掛け、車が来ている事を教えてくれました。

また別の日では、千原さんが業者さんの車を見つけると、おもむろに駆け寄り、業者の方に『いつもお世話になってます』と言わんばかりに、深々とお辞儀をして手を振ることがありました。私は思わず気持ちがホッコリして、今までの自分の中にあった千原さんが『我が道を進む人』から『仲間想いで、感謝の気持ちをきちんと持てる人』へと大きく変化していくのでした。

松坂

『さあ新しいスタートだ。』

今年の新年会は成人の方がいるので、そのお祝いを兼ねて、ホテルで行いました。目玉はコースの料理です。いつものことですが、皆さん、しっかり「よそ行き顔」。場の使い分けには毎回驚かされます。

優美子さん、優介さんは二十歳。太陽のしずくを利用して今年で二年目。そんな二人もお嬢さま、好青年の笑顔とすまし顔、笑い声さえ普段とは違うように感じられます。

大人の仲間入りをした二人に、お母さんからの手紙が披露されて、周囲がほろりと目が潤む中、最後まで壇上で聞くことができました。

二人の姿を見て、つくづく「成長」ということを感じました。いつも沢山の大人の中で過ごし、お仕事をし……、日々知らず知らずのうちに人は成長していくものだと改めて思う瞬間でした。来年はどんな顔を見せてくれるのかな。楽しみの一つになりました。

もうひとり、私の隣で食べている和美さんも、しっかり椅子に座って、おしとやかに料理を堪能していました。普段はどんどん突き進む活動的な和美さんです。でも、彼女は豊岡光生園、グループホームと太陽のしずくの十五年の暮らしの中で、大きく変わっていった方です。五十年の自宅だけの生活から一枚一枚脱皮するように、たくさんの経験を重ねました。自分の要求が出せるようになったり、傍目では小さいけど、彼女にとってはかけがえのない大きなステップなんです。

あ、そうそう。お肉の好きな和美さんがメインの「鴨のロース」を口に入れた時です。素敵な笑顔は消えて、何度も口から出してしまうのです。

長年のお付き合いの中で、「鴨肉はダメなんだ」とわかった瞬間でした。

毎年様々な経験を積むたびに、皆の「初めて」を発見できることは、嬉しいことです。その気持ちが私たちのやる気に繋がっているのだと、改めて感じた新年会になりました。

紗代子

湊ひかり学園

学園新聞

道草

こうすけさんはパンとまんまとサラダが好きだが、それ以上に大好きな「食べ物」がある。

こうすけさんはお皿が空になると、食べ終わったお皿をかたづけに行くのだが、行ったきりなかなか戻ってこない。と思ったら、他のテーブルの人にニコニコしながら話しかけている。更に、そこのテーブルの皿もかたづけてあげたりしている。そしてまた、他のテーブルでも話しかけていて、元のテーブルに戻ってこない。このように「道草」を食うのが、大好きなのである。

おそうじの時間にゴミを捨てに行く際も、お薬の容器を看護師さんに返しに行く際も、違うところでニコニコして他の人に声をかけたりして油を売っていたりする。そんな、目的地になかなかたどり着かないこうすけさんだが、本人は楽しそうで、こんな人生もいいなと思う。

私もこうすけさんを見習って、道草しながら生きていく。と口にしたら、あなたはどこに行ってしまうか分からない浮き草だ、と笑われた。私のことはさておき、こうすけさんはきっと末永く愛され、語り草になるであろう。

（室田）

成人式

いつも元気でムードメーカーなあずささんと、物静かでマイペースなみつたかさんのふたりが一月十一日に成人式を迎えました。

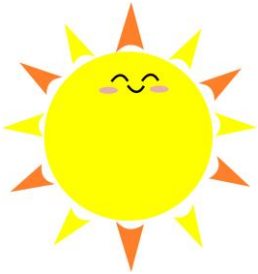
七年前から湊ひかり学園を利用されている大ベテランのあずささんは、成人式でもどこ吹く風！　一方、みつたかさんはどこか緊張気味な様子。そんな様子に気付いたのか、あずささんはみつたかさんと手をつないで仲良く入場され、式は和やかに進んでいきました。

途中、新成人のふたりからコメントをいただく場面では、あずささんが仲の良い利用者に「結婚しよう！」なんて爆弾発言をする場面も（笑）。自分に言われたと勘違いして、みつたかさんはOKサインを出してしまうし…これには皆が大笑い。会場全体が笑いに包まれる、とっても賑やかな成人式となりました。

おふたりとも、成人おめでとうございます！

（大木）

新成人の抱負



豊岡光生園

園だより

「♪あったかいんだからぁ～♪」

大寒が近づくにつれ、寒さが一段と厳しくなってきました。利用者さんのおしごとも、この時期は寒さとの戦いです。休憩時間の合い間を見て少しでも体を温めてもらいたいと、職員手作りの足湯が園庭にオープンしました。

一番始めに誘ったのはソファーでくつろいでいた政章さん。玄関まで行くと

『なんだ？　外に行くの！　寒いよ！』

とクルッとターンしてソファーへ戻ろうとしましたが、職員になだめられ渋々足湯へ向いました。靴下を脱ぐと表情は一変、自分から足を湯の中へ入れ、丁度いい湯加減だったのか、

「アハィ・アハィ」（機嫌のいい時の声）

と笑顔で足湯から出る様子もなく三十分以上も楽しんでいました。

二番目は康弘さん。露天風呂だと思ったのかトレーナーを脱ぎ始めたので職員が「エーッ。これは足湯だよ。小さすぎるよ」と言うと、

『オレ間違えた？』

と苦笑い、康弘さんはゆったり一時間程楽しんでいました。

二人とも、休憩時間が長くない？

『しょうがないじゃん！』

あったかいんだからぁ～♪

森田明美

今年の抱負

新成人の誓い

利用者さん
職員一人一人と
の信頼を
深めたい！
飯田友香

体を
動かすのが
好き！
マラソンして
みたい。
郷内大輝

鴨川ひかり学園

ひかり通信

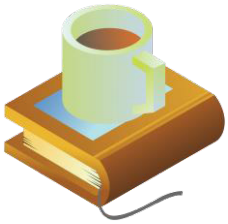
「とっておき！ にやり・ほっと」

和田浦の道の駅「WA・O」にある小さな喫茶店「なごみ喫茶」。何度か訪れている渡邉順一さんが、この日も大好きな列車が載っている小さな本を持って入店しました。

すると、そこで働くスタッフが順一さんに、「あなた、列車のこといつも本で勉強しているのね」と話しかけてきました。さらに他のスタッフに「この方勉強家なのよ」と紹介してくれ、その本に載っている列車を知っているとのことで、自分の旅話まで聞かせくれました。

会話の展開力にしびれたとともに、その方の温かさに触れられたひとときでした。

（にやり・ほっと報告書より）



「地域へ出て行くことの素晴らしさ」を改めて実感したワンシーンです。また一つ、素敵なにやり・ほっとが増えました。

祝 成人 おめでとう！ 大塚秋人さん

秋人、成人おめでとう。

赤ちゃんの頃は心配と不安ばかりでしたが、だいぶお兄さんらしくなってきたと思います。でも、社会ではまだまだ甘えん坊さんです。みなさんにいろいろなことを教えていただきながら、いつでも笑顔を忘れずにいてください。

母より

今年の抱負（新職員紹介）

【編集後記】

日本経済新聞六月八日の夕刊でも紹介された「にやり・ほっと活動」。私たちもこの活動を始めて一年半が経ちます。日々、利用者と接する中で思わずにやりとしたり、ほっと温かい気持ちになったりする瞬間。これからもたくさん出合っていきたいと思います。

（広報委員 岩﨑）